

博物館だより 2016年 夏号 *The Museum Letter*

葛飾区郷土と天文の博物館 | Katsushika City Museum



Contents



帝釈天が描かれた絵馬(部分) 題経寺蔵

平成28年度 企画展

葛飾・柴又の宝物

— 知られざる歴史・文化的魅力 —

柴又の歴史を物語る新たな資料など、
柴又の歴史的・文化的魅力を展示解説します。

平成28年 **7/24** [日] ▶ **9/19** [月・祝]

【特集】

博物館開館25周年

葛飾区郷土と天文の博物館が開館したのは、
平成3(1991)年7月20日。

この夏、四半世紀の節目の年を迎えました。
郷土と天文それぞれの学芸員が25年を
振り返りながら、「郷土かつしか」のこと、
現在上映しているプラネタリウムの
アンコール番組のことなどを
お話しします。





平成28年度企画展

葛飾・柴又の宝物

— 知られざる歴史・文化的魅力 —

平成23年度から26年度にかけて実施した、文化庁の補助事業「柴又地域文化的景観調査」によって明らかとなった柴又の歴史的・文化的魅力を、新たに発見された資料とともに展示解説します。

1 柴又の地勢

縄文海進以降の東京低地の形成や、柴又を取り巻く河川・動植物などの自然環境を探ります。

2 地域の開発と景観の変遷

柴又の先人の歴史や環境変遷をたどりながら、近代以降の柴又の開発や映画が撮影された頃の柴又の情景を紹介します。

3 柴又の歴史・文化的魅力

従来から知られていた柴又の歴史的・文化的遺産とともに、新たに発見された資料などから柴又の魅力を紹介します。

4 葛飾・柴又の魅力を後世に伝える

「日本の風景」を代表する一つとして注目されている柴又の景観を後世に継承していくための取り組みを紹介します。

関連イベント

記念講演「葛飾・柴又の文化財」 要・事前申込み
8月14日(日) 午後2時～4時 会場：当館講堂
山本光正氏(葛飾区文化財保護審議会会長)

柴又まち歩き「柴又」 要・事前申込み
第1回 8月21日(日) 各日午後2時～4時半
第2回 9月4日(日) 会場：柴又界隈

地元の小中学生から見た「柴又の宝物」を寸劇で
ワークショップ「柴又の宝物さがし」発表会
8月3日(水) 午後4時～5時
会場：帝釈天経経寺鳳翔会館

地域史ラフォーラム

「江戸・東京と葛飾・柴又」 要・事前申込み
8月28日(日) 午前9時半～午後4時半
会場：帝釈天経経寺鳳翔会館

*申込み方法、締切日など詳細は当館ウェブサイト又は「広報かつしか」をご覧ください。

平成28年

7/24 [日]

9/19 [月・祝]

葛飾区郷土と天文の博物館
1階講堂前・2階特別企画展示室

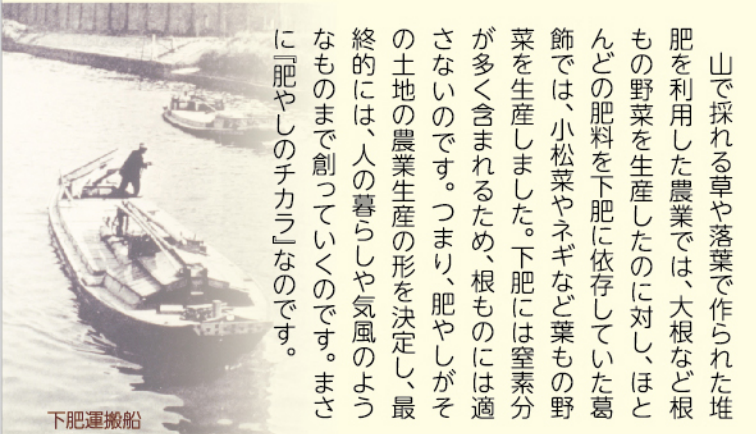
常設展示室にある大きな葛西船。江戸・東京の周辺農村であった葛飾には、明治の始め頃には16,000程の人が住み、その95%が農家でした。博物館の開館準備をしているときから、調査を行ってきた下肥を利用した農業から町工場のものでつくりまで、「昔のかつしか」の姿をお話します。

郷土博物館開館25周年 天文

民俗担当学芸員 堀 充宏

天文担当学芸員 新井達之

プラネタリウムでは、季節ごとに4本のオリジナル番組を制作し、専門のスタッフが生で解説しながら「宇宙のいま」を紹介しています。通算98本の番組から現在お送りしているのは、25年の番組制作なかでターニングポイントとなったものです。また、天文学に関する展示のほか、様々な講座、観望会を実施しています。



下肥運搬船

下肥を利用した農業

江戸時代から昭和20年代までの葛飾は、下肥を利用した農業が盛んであり、組織的に下肥が運搬されていきました。そこで、常設展示室に葛西船下肥の運搬船の模型を展示することになりました。しかし、船の資料が乏しく、船頭さんをされていた方を訪ね歩いたり、綾瀬川の手代橋(埼玉県・草加市)付近に沈んでいた船をボートで調査したりしました。また、八潮市に葛西船を作っていた船大工さんがいることが判り、その方を中心に、和船の研究をしている方にもご協力いただき、何とか模型を完成することができました。

山で採れる草や落葉で作られた堆肥を利用した農業では、大根など根もの野菜を生産したのに対し、ほとんどの肥料を下肥に依存していた葛飾では、小松菜やネギなど葉もの野菜を生産しました。下肥には窒素分が多く含まれるため、根ものには適さないのです。つまり、肥やしがその土地の農業生産の形を決定し、最終的には、人の暮らしや気風のようなもので創られていくのです。まさに『肥やしのチカラ』なのです。

葛飾という土地の様々な仕事に共通しているのが、「きつい納期」に縛られていたという状況です。江戸時代から葛飾の伝統産業であったしめ飾り、熊手作り、また、ほおずき市に出荷するほおずきも葛飾で生産されていました。これらは江戸の祭り



ネギの「大束」

農家では、午前2時、3時に起きて、野菜を神田や千住の市場に持っていきます。市場で高値がつくように、きれいに梱包する技術は、「まるき」と言われますが、野菜ごとに、独特のまるきかたがありました。ネギは昭和10年代まで小口を切っていました。約250本のネギを束ねた「大束」、これを作る人はネギ作りの名人と言われました。葛飾の農家はまるきかたが上手で、ネギ以外の名人も多かったです。葛飾の農業は、農業生産だけではなく、商人的な面があると感じています。

現在、この秋の特別展で紹介する葛飾区内のセルロイド工業の調査を進めています。このセルロイド工業にも「きつい納期」の縛りがありました。セルロイド製品は、アメリカでクリスマス飾りに使われていたため大量に輸出されました。暑い夏に50度にもなる作業所でセルロイドの加工をし、輸出する船のなかで検品するということもあったそうです。

セルロイドと家内制手工業

などで使われる「際物」と呼ばれたものです。また農作物でも三社祭に合わせて出荷の最盛期を迎える糸三つ葉、雑煮用の切り三つ葉など、それぞれ江戸の町の行事に合わせた生産を行っていました。熊手を作っている家庭が、蓮を栽培する、夏には金魚屋さんになる、暮れにはしめ飾り……と、兼業の家庭が多いのも特徴のひとつです。昔から葛飾に住んでいる方はよく「はしっこい」先を見通す能力があると言いますが、どこかせつかな気風も、こうした暮らしからきているのかもしれません。



セルロイドのトナカイを作る

セルロイド人形の「ミーコ」

ひとつのセルロイド人形を作るために様々な人が関わっていました。人形の原型を作る原型師、それをもとに鋳型を作る金型屋さん、型で人形を作る型抜き職人、人形に服を着せたり、顔を描いたりする内職の方々。セルロイドを中心として、生産に携わる家々が、小さな企業城下町のようになっていました。特別展では、セルロイドに関わる様々な仕事や、それに携わった人々を、ていねいに取りあげていきたいと思います。

人と人との関わり

などの無理をきかせることができたのです。その原点は、昔から際物や野菜を作ったで都心に出荷してきた農家の労働だったと思います。家族単位で仕事をするという風土があったから、家族経営の工業が自然と根付いたのだと思います。



座席の回答ボタンでクイズに答える参加型の番組、今年で21作目

開館して4年目の1994年アメリカのサンディエゴにあるルーベン・H・フリート宇宙劇場で制作された番組『トウ・ワールズ・ビヨンド』を輸入し、日本語版を作りました。ナレーションは、俳優の故・佐藤慶さん。最先端の科学、最新の研究成果をエンターテインメントとして紹介するアメリカの番組には、映像の迫力など目をみはるものがありました。続いて制作したのが『天の川の四季』。こちらは名古屋科学館プラネタリウムの名解説者で、天文学の普及に尽くされた故・山田卓さんにフリートークでの解説をお願いしました。

2007年プラネタリウムをリニューアルして、デジタルのシステムを導入しました。従来の光学式プラネタリウムは、地球上から見上げた夜空の星を映します。対してデジタルの技術は、地球から離れた宇宙の果てまでの体験を可能にしました。これにより番組制作の幅が広がりました。『かつしかから宇宙へ』が生まれました。現在放映しているのは、2009年にリメイクした『特別編』。観る人の宇宙観を大きくゆさぶる、よりダイナミックな映像になっています。

2007年には、もうひとつ大きな出来事がありました。夏に開催したプラネタリウムコンサートです。石川優美&Ponolanの奏でる音楽とプラネタリウムの映像が一体となり、見る人をハワイの星の夜へと誘いました。



共同開催のコンサートプログラム

2年の準備期間を経て、2009年に葛飾とハワイで、同じ映像を使ったコンサートを開催しました。この時の映像をもとにできたのが『ハワイ、海と星と』です。日本がハワイ島に建設した、すばる望遠鏡がとらえた天体の姿や、これまで関係者しか見ることができなかった、ドームからの山頂の風景も楽しめる番組です。

驚いたことに、このコンサートの開催を知ったハワイ在住の日本の方が、地元のプラネタリウム「イミロア天文学センター」に、同じものを開催できないかと提案していることが伝わってきたのです。同じシステムを使用していること、イミロアのスタッフであったショーンさんと私が知人であったという偶然が重なり、ハワイと葛飾で共同制作のプロジェクトがスタートしました。



ハワイ島 イミロア天文学センター

季節の番組

『クイズ! スター&プラネット2016』

座席のボタンでさまざまなクイズに挑戦。成績が悪いと「恐怖の罰ゲーム」が!!

プラネタリウムのご案内

7月21日(木)から8月31日(水)の期間

■季節の番組 『クイズ! スター&プラネット2016』

■アンコールアワー

(14:30の回)『かつしかから宇宙へ【特別編】』

(17:30の回)『ハワイ、海と星と -レイ・ホーク、ヘ・ピリ・アロハ-』

■こども番組 『かつしかドームステーション・土星バージョン』

	11:30	13:00	14:30	16:00	17:30
土曜日	こども番組	季節の番組	アンコールアワー	季節の番組	アンコールアワー
日曜・祝日	こども番組	季節の番組	アンコールアワー	季節の番組	
夏季平日 (7/21-8/31)		季節の番組	アンコールアワー	季節の番組	

*8月10日(水)と、12日(金)は、11:30の回「こども番組」の放映があります。

こども番組

『かつしかドームステーション・土星バージョン』

今夜の星空と太陽系のお話、そして土星へ。ドームくんと一緒に宇宙の旅。

葛飾区郷土と天文の博物館ご利用案内

開館時間	午前9時～午後5時 (金・土曜日は午後9時まで開館。ただし金・土曜日が祝日の場合、午後5時に閉館。入館は閉館の30分前まで)
休館日	月曜日、第2・4火曜日 (月曜祝日は開館。火曜祝日は開館し翌平日休館)
入館料	大人 100円 小・中学生 50円 幼児無料 (毎週土曜日は中学生以下無料。20人以上の団体は2割引)
プラネタリウム 観覧料	大人 350円 小・中学生 100円 幼児(座席を使う場合) 50円 (毎週土曜日は中学生以下無料。20人以上の団体は2割引)
年間 パスポート	大人 2,000円 中学生以下 700円 購入から1年間、入館とプラネタリウムが見放題になる大変お得なパスポートです。購入時にご希望があれば、「博物館だより」(年3回発行)を1年間お送りします。
アクセス	



- 電車** 京成線「お花茶屋」駅から徒歩8分
JR常磐線「亀有」駅から徒歩25分
- バス** ① レインボーかつしか(有71・有72系統)
又は京成タウンバス(有70系統)で
「白鳥わかば公園」バス停下車 徒歩3分
(有71 金町駅南口～亀有駅南口～ウェルピアかつしか)
(有72 亀有駅南口～ウェルピアかつしか)
(有70 金町駅南口～亀有駅南口～ウェルピアかつしか 又は 葛飾区役所)
- ② 京成タウンバス(有57系統)で「上千葉小学校」バス停下車 徒歩5分
- ③ 京成タウンバス(有57系統)で「共栄学園」バス停下車 徒歩5分
(有57 亀有駅南口～葛飾区役所～タウンバス車庫)

博物館だより

発行

葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1

電話 03-3838-1101 FAX 03-5680-0849

<http://www.museum.city.katsushika.lg.jp/>